



# 鮮魚に可能、EPA表示

## 消費者委、基準案を承認

食品の機能性成分を表示できるようなするための新制度にかかる食品表示基準案について、内閣府の第三者機関である消費者委員会は4日、審議承認した。新制度では、生鮮水産物にもDHAやEPAなどの機能性を表示できるようにする。表示の具体的な内容は、消費者庁が策定するガイドラインなどに盛り込まれ、年度内の施行を目指す。基準案は消費者庁が作成する事前届け出制で、国の許可を必要としない。ヒト試験の代わりに、最終製品または機能性成分に関する査読付き研究論文(研究レビュー)などで、表示機能成分の有効性の科学的根拠を示すことができれば、事業者の責任で表示できる。

対象食品は、酒類や塩分・糖分などを過剰摂取させる食品を除く「食品全般」で、生鮮水産品も含まれる。機能の表示方法は特保に準じる。「膝の調子を整える」「目の健康を維持」などの健康増進効果が可能だが、「花粉症が気になる方へ」「目の疲れが気になる方へ」などの疾病名を含む表示は不可。

今後、同委員会下部組織の食品表示部会で検討したうえで、消費者委員会として答申。これを受けて、消費者庁でガイドラインづくりを進める。

### 今後ガイドラインなどで具体的な内容を示す予定項目

安全・生産性のあり方	
1	対象となる食品および成分、摂取量
2	生産・製造および品質管理
3	健康被害などの情報収集
4	危険な商品の流通防止措置など
食品の機能性表示を行うにあたっての科学的根拠の考え方	
1	最終製品を用いた臨床試験
2	最終製品または機能性成分に関する研究レビュー
表示のあり方、食品の機能性表示	
1	適切な機能性表示の範囲
2	容器包装への表示
3	容器包装表示以外の情報開示
国の関与	
1	販売前届け出制の導入

日刊水産経済新聞

11月6日

## 関西・中四国スーパー上場7社中間期

みなと新聞

10月15日

# 水産既存店4社が増収

## 惣菜はイズミ、ライフ好調

【大阪】関西・中四国に本社を置く上場スーパー7社の中間期業績がまとまった。水産の売上高(単体)は、前年同期を上回ったのがイズミ(10.5%増)、ライフ(10%増)、平和堂(9.1%増)の他、マックスバリュ西日本(0.2%増)、天満屋ストア(0.1%増)の5社。イズミとライフの2社は2桁増、平和堂も2桁に迫る伸びと好調。一方、オークワは4.3%減と落ちた。

### 関西・中四国上場スーパー各社2014年2月期第2四半期水産/惣菜部門業績

会社名	決算期末	本社又は本部	店舗数(店)	水産		惣菜	
				売上高	前年比	売上高	前年比
ライフコーポレーション	2月	大阪/東京	244	20,719	110.0%	28,323	110.5%
オークワ	2月	和歌山	163	9,958	95.7%	11,012	95.1%
マックスバリュ西日本	2月	広島	178	9,579	100.2%	11,302	101.7%
平和堂	2月	滋賀	141	9,472	109.1%	13,375	106.1%
イズミ	2月	広島	91	8,449	110.5%	10,523	112.3%
フジ	2月	愛媛	98	5,005	99.2%	6,220	98.6%
天満屋ストア	2月	岡山	26	1,058	100.1%	1,205	98.7%

注: イズミの店舗数は、高級ブランド品販売の「エケル」単独店を除く。

既存店では、前年同期を上回ったのが天満屋ストア(6.5%増)、ライフ(4.1%増)、平和堂(4.1%増)、イズミ(3.4%増)の4社。下回ったのはフジ、オークワ、マックスバリュ西日本の3社と明暗を分けた格好。7社の1店舗当たりの水産売上高は6880万円。この平均売上高を上回ったのは、イズミ(9280万円)、ライフ(8490万円)の2社のみ。他の5社は平均以下となった。平和堂(7200万円)、オークワ(6110万円)、マックスバリュ西日本(5380万円)、フジ(5110万円)、天満屋ストア(4070万円)の順。

惣菜部門の売上高は、イズミ(12.3%増)とライフ(10.5%増)が2桁増と好調。平和堂(6.1%増)、マックスバリュ西日本(1.7%増)

も前年を上回ったが、他の3社は下回った。既存店では天満屋ストア(5.5%増)、イズミ(4.1%増)、ライフ(3.4%増)、平和堂(2.2%増)が好調。他の3社は前年を下回った。惣菜部門ではイズミ、ライフの好調が目立った。一方、天満屋ストアの既存店の伸びは注目に値する。

# 大 水 営業、経常とも赤字

大 水 業績 (単位:百万円)

	売上高 (増減率%)	営業利益 (同%)	経常利益 (同%)	当期純利益 (同%)
連結	61,756 (▲1.1)	▲57 (-)	▲14 (-)	▲42 (-)
通期予想	135,000	270	340	260

みなと新聞  
11月6日



真部誠司社長

大 水 (真部誠司社長) の2014年4-9月期連結決算は、売上高が前年同期比1.1%減、損益面では5700万円の営業損失(前年同期は2600万円の営業損失)、1400万円の経常損失(前年同期は5300万円の黒字)を計上、最終損益も4200万円の赤字(前年同期は3800万円の黒字)となった。

水産販売事業は、販売数量が減少したことから、鮮魚売上総利益、前年並みに

売上高は61億6660万円、1.1%減となったが、鮮魚部門の売上高総利益率が改善したことなどによって、売上総利益は3億6700万円とほぼ前年同期の水準となった。しかし、前第3四半期連結会計期間に新基準システムを導入したことから減価償却費などが増加したため、営業利益は1400万円、54.9%の減少となった。

冷蔵倉庫等事業は、在庫量の減少などから売上高は1億2100万円、7.4%減、営業損失が100万円(前年同期は400万円の黒字)となった。

管理部署事務所移転 きのう業務開始

大阪中央冷蔵 住所は大坂市福島区野田1の1の86。電話番号は06-64669-740

【大阪】大阪中央冷蔵は本社工場の建て替え工事のため、南港工場内に設けた管理部署の仮事務所を本社工場の完成に伴い移転、管理部署は4日から新本社工場へ業務を開始する。

みなと新聞 11月4日